

「朝日庄内プロジェクト」リニューアル 検討委員会（第2回）

平成21年10月29日（木）

9：30～12：15

庄内森林管理署 会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 東北森林管理局計画部長挨拶
- 3 出席者の紹介
- 4 議 事
 - （1）プロジェクト改訂（素案）について
 - （2）今後のスケジュールについて
 - （3）その他
- 5 閉 会

配 付 資 料

資料 1 新「朝日庄内プロジェクト」の検討案

資料 2 森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト
(改訂素案)

資料 3 今後のスケジュール(案)

参考資料

- 1 第1回検討委員会発言概要(未定稿)
- 2 プロジェクト新旧対照表
- 3 新プロジェクトの実施体制(イメージ)

「朝日庄内プロジェクト」リニューアル
検討委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

氏 名	職 業 等
おお た たけし 太 田 威	尾浦の自然を守る会会長
お の であ ひろ みち 小 野 寺 弘 道	山形大学農学部教授
くわ じま せい いち 桑 嶋 誠 一	山形新聞社論説委員長
さ とう たか ゆ き 佐 藤 尚 有 亀	西川町大井沢支所長
たか はし のり お 高 橋 教 夫	山形大学農学部教授
ちよう なん あつし 長 南 厚	出羽三山の自然を守る会常任理事
み さわ えい いち 三 沢 英 一	万里の松原に親しむ会会長
やま もと ます お 山 本 益 生	鶴岡市農林水産部長

事務局

東北森林管理局

氏 名	所 属 等
平 野 均一郎	計画部長
高 橋 東	指導普及課長
吉 田 等	企画官（自然再生）
青 山 一 郎	朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長
山 口 昭 雄	〃 自然再生指導官
庄 司 友 治	〃 自然再生指導官
庄 司 卓 矢	〃 自然再生指導官

関係する森林管理署出席予定者

新 林 昭 一 庄内森林管理署 流域管理調整官
片 桐 浩 司 山形森林管理署 次長
川 村 一 憲 置賜森林管理署 次長

新「朝日庄内プロジェクト」の検討案

平成 21 年 10 月 29 日

プロジェクトの内容	今後の方向(案) (第1回検討委員会提示)	第一回検討会における意見への対応(案) (重点的に実施する項目:)			新プロジェクト (素案)
		ネット ワーク化	情報センター化		
			情報収集 現況把握	情報発信 情報提供	
1 朝日山地森林生態系保護地域の保全					1 朝日山地森林生態系保護地域の保全
管理委員会の運営	<p>今後も管理委員会の議論に基づき保全管理を実施していく。</p> <p>-----</p> <p>環境省ワーキンググループ当時と同様、管理委員会との齟齬をきたさないよう連携していく。</p>				<p>管理委員会の運営</p> <p>年1～2回実施</p>
特別モニタリング調査の実施	<p>第2期のモニタリングについて既定の手法で継続的に実施する。</p> <p>広域的な動態変化の把握を行う新たなモニタリング調査を検討すべきではないか。</p> <p>森林生態系保護地域内における生物種のリスト整備を図るべきではないか。この場合、地元大学の専門家や愛好会等ボランティアの協力を広範かつシステムティックに得る仕組みの構築を検討すべきではないか。</p>				<p>生物多様性の実態と動態の把握</p> <p>特別モニタリングの引き続き実施、広域の動態把握及び生物種リストの整備</p>
ボランティア巡視	<p>引き続き巡視による森林生態系保護地域の保全・啓発を行う。</p> <p>ボランティアの巡視報告体制を再整理すべきではないか。</p> <p>より効果的・計画的な方法を検討すべきでないか。</p>				<p>人工林の天然林化</p> <p>森林生態系保護地域内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進</p>
		凡 例			<p>ボランティア巡視</p> <p>効率的・効果的な巡視の実施</p> <p>21年度は80名程度委嘱</p>
		<p>: 見直しにあたって重点的に取入れるもの</p> <p>: 見直しにあたって一部取入れるもの</p> <p>: 見直しにあたって取入れないもの</p>			<p>現況把握</p>

プロジェクトの内容	今後の方向（案） （第1回検討委員会提示）	第一回検討会における意見への対応（案）			天然林化	新プロジェクト （素案）
		ネット ワーク化	情報センター化			
			情報収集 現況把握	情報発信 情報提供		
2 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備						2 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備
モニタリング調査の実施	当該地域は国内希少野生動植物種クマタカの生息が多いことが知られており、スキー場跡地の自然再生箇所以外のエリアについても、局委託調査を補完する形でモニタリング調査を実施し野生動物の生息状況のきめ細かな把握に努める。					モニタリング調査の実施 スキー場跡地の自然植生回復状況調査の実施 野生動物の生息状況の把握
自然再生施策	人工林のうち必要な箇所において、野生動物の生息環境に配慮しながら混交林化を進める施策を関係署と連携して実施することとし、具体的な実施箇所について検討すべきでないか。					自然再生施策 緑の回廊内の人工林の抜き伐り等による 針広混交林化の推進
スキー場跡地等の植生復元	自然再生実施計画に基づく事業を引き続き実施するとともに、モニタリングにより経過を十分見極め、自然再生実施協議会において今後の取り扱いにフィードバックする。					スキー場跡地等の植生復元 自然再生実施協議会による実施
						森林環境教育の実施 自然再生活動と連携した森林環境教育の実施
						現況把握

プロジェクトの内容	今後の方向（案） （第1回検討委員会提示）	第一回検討会における意見への対応（案）			新プロジェクト （素案）	
		ネット ワーク化	情報センター化			天然林化
			情報収集 現況把握	情報発信 情報提供		
3 庄内海岸林の保全活動					3 庄内海岸林の保全活動	
ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力 （被害状況の把握等）	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。				巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握 ボランティアと連携した巡視の実施による松くい虫被害等の把握及び生物多様性を把握するための調査の実施	
ボランティアによる被害跡地の再生	今後も、ボランティアと連携して、被害跡地の発生に応じて取り組む。				ボランティアによる森林整備への協力 ボランティアによる森林整備を促進するための支援	
ボランティアによる森林整備 （植え付け・保育等）	今後も引き続き「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の構成機関としてボランティア団体の指導等に参画する。また、必要な森林整備については森林管理署やボランティア団体と連携して取り組む。 ----- 海岸のクリーンアップについては主体を「美しいやまがたの海プラットフォーム」や地域自治体に委ね、作業への参画等後方からの支援にシフトする。				森林環境教育の実施 関係団体と連携した森林環境教育の実施	

プロジェクトの内容	今後の方向（案） （第1回検討委員会提示）	第一回検討会における意見への対応（案）			新プロジェクト （素案）	
		ネット ワーク化	情報センター化			天然林化
			情報収集 現況把握	情報発信 情報提供		
(3-2 高館山の保全活動)					4 高館山の保全活動	
ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力（被害状況の把握等）	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。				巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握 ボランティアと連携した巡視の実施による虫害等の把握及び上池・下池の鳥類を含む生物多様性を把握するための調査の実施	
ボランティアによる被害跡地の再生	新たな処理箇所の状況を把握し、必要に応じて植栽や更新補助作業等の再生事業に取り組む。			-	森林環境教育の実施 鶴岡市（例えば庄内自然博物館構想（仮称））や関係団体と連携した森林環境教育の実施	
	上池下池がラムサール条約登録湿地となったことを受け、水鳥の多数渡来する冬期においても巡視を強化し鳥類の観察・記録を実施する。 鶴岡市の庄内自然博物館（仮称）構想と連携した森林環境教育を検討すべきではないか。					
4 研究フィールドの提供等					5 朝日自然塾の展開	
（朝日自然塾の実施）	朝日自然塾連絡協議会において今後も対象者のスケールアップに工夫を凝らして実施。 仙台等都市住民の参画を得るため旅行会社との連携を検討。 西川町で子供農山村プロジェクト「月山山麓かもしか学園」との連携を検討すべきではないか。 鶴岡市「森林文化都市構想」との連携を検討すべきではないか。				朝日自然塾の実施 朝日自然塾協議会構成団体や西川町子供農山村プロジェクト等と連携した森林環境教育の実施	

プロジェクトの内容	今後の方向（案） （第1回検討委員会提示）	第一回検討会における意見への対応（案）			新プロジェクト （素案）	
		ネット ワーク化	情報センター化			天然林化
			情報収集 現況把握	情報発信 情報提供		
<p>森林環境教育への協力</p> <p>「六十里越街道歴史資源活用事業」への協力</p> <p>NPOが行う「ふれあいの森」造成への協力</p> <p>「やまがた公益の森」構想への協力</p> <p>ナラ枯れ被害対策</p> <p>ウエツキブナハムシ被害</p>	<p>引き続き実施するが、プログラムの固定化や指導者の習熟に応じて側方・後方からの支援にシフト。より広い対象への働きかけを模索する。</p> <p>学校等に受入をPRするとともに、要請に応じて適宜実施する。</p> <p>森林管理署との調整の上、鶴岡市の「森林文化都市構想」関連事業と連携するとともに、アルコディア研究会と連携して六十里越街道沿線の工事跡地への植樹もしくは更新補助作業に取り組む。</p> <p>要望があった場合には、窓口として速やかに森林管理署に取り次ぐとともに、事業実施に際してソフト面から支援する。</p> <p>今後も引き続き「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の構成機関としてボランティア団体の指導等に参画する。</p> <p>今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。特に高館山においては、前述のとおり他の穿孔虫も注視する。</p> <p>引き続き被害状況等の把握及び発信に努める。</p>				<p>6 その他</p> <p>ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力</p>	

プロジェクトの内容	今後の方向（案） （第1回検討委員会提示）	第一回検討会における意見への対応（案）			天然林化	新プロジェクト （素案）
		ネット ワーク化	情報センター化			
			情報収集 現況把握	情報発信 情報提供		
						<p>地元団体等との連携</p> <p>ネットワークの強化</p> <p>モデルプロジェクトのより効率的・効果的な実施を目指して、これまでの連携団体に加え地元の関連する団体等からモデルプロジェクトへ参画していただく「サポーター（仮称、以下同じ）」を募るとともに、「サポーター会議」を設立し、関係団体のネットワーク化を強化。</p> <p>情報センター化</p> <p>モデルプロジェクトに係る情報収集・発信の一元化（例えば、関係機関・団体・サポーター等に対するメールマガジンの定期発行やサポーター等から定期的に情報提供を受ける仕組みなどシステムティックな情報収集・発信体制の構築）を図る。）</p>

東北森林管理局における「モデルプロジェクト」への取り組み - 森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト -

(改訂素案)

1 趣 旨

「国民の参加による管理経営」の一層の推進を図るため、森林や国有林に関心を持つ市民団体や地域住民等との合意形成を図りながら連携して、森林の整備・保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、森林とのふれあい等を実施する「モデルプロジェクト」に森林管理局が取り組むものです。

東北森林管理局では、8つの森林生態系保護地域をはじめとする原生的な森林生態系を維持する多くの保護林や、これらをつなぐ4つの緑の回廊を設定し、広大な森林生態系ネットワークの形成に努めています。

関連する保護林の面積は178千ha、緑の回廊は175千ha、合計353千haであり、これは東北森林管理局の国有林の20%に当たり、これらの保護林を適切に保全し、緑の回廊において自然林の再生を図ることは、東北森林管理局の最重要課題となっています。

保護林の多くは自然公園と重複することから、マナーを守った適切な利用とオーバーユースが課題であり、緑の回廊においては、人工林の間伐を促進し、時間をかけて自然植生の再生を図っていくことが求められています。また、昨今、生物多様性の保全に対する関心が高まっているなか、活動エリアにおける生物多様性の把握とその適切な保全が重要になっています。

これらの諸課題を解決し、実効ある保全・再生活動を行うためには、地域のNPOや関係団体等の意見を聞き、協力を得ることが不可欠となっています。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、7万haの朝日山地森林生態系保護地域とそれに接続する鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊を主な活動エリアとしており、NPOや関係団体等の活動も活発であることから、NPOや関係団体等と協力した森林生態系ネットワークの保全・再生をモデル的に実施し、その成果をもって管内全域に普及させることとします。

2 対象地域

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| (1) 朝日山地森林生態系保護地域 | 7万 ha(関東局分 22千 ha を含む) |
| (2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の一部及びその周辺 | 1万 ha |
| (3) 月山植物群落保護林 | 7千 ha |
| (4) 庄内海岸林・高館山 | 8百 ha |

3 内容

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。

(1) 朝日森林生態系保護地域の保全

ア 管理委員会(1)の運営

年1～2回開催

イ 生物多様性の実態と動態の把握

特別モニタリング(2)の引き続き実施、広域の動態把握及び生物種リストの整備

ウ 人工林の天然林化

森林生態系保護地域内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進

エ ボランティア巡視

効率的・効果的な巡視の実施

21年度は80名程度委嘱

オ 現況把握

1： 朝日山地森林生態系保護地域管理計画書に基づき、森林生態系保護地域の管理状況、特別モニタリング調査や随時発生する案件等について協議するための常設の委員会。

2： 同じく、森林生態系保護地域の取り扱いに役立てるため、5年間厳正に入林を規制し、森林生態系の推移について行うモニタリング。森林生態系保護地域において有識者の間で議論の分かれる入林問題の解決を目指す。森林植生と溪流魚について実施。

(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備

ア モニタリング調査の実施

スキー場跡地の自然植生回復状況調査の実施、野生動物の生息状況の把握

イ 自然再生施業

緑の回廊内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進

ウ スキー場跡地等の植生復元

自然再生実施協議会による実施

エ 森林環境教育の実施

自然再生活動と連携した森林環境教育の実施

オ 現況把握

(3) 庄内海岸林の保全活動

ア 巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握

ボランティアと連携した巡視の実施による松くい虫被害等の把握
生物多様性を把握するための調査の実施

イ ボランティアによる森林整備への協力

ボランティアによる森林整備を促進するための支援

ウ 森林環境教育の実施

関係団体と連携した森林環境教育の実施

(4) 高館山の保全活動

ア 巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握

ボランティアと連携した巡視の実施による虫害等の把握及び上池・下池の鳥類を含む
生物多様性を把握するための調査の実施

イ 森林環境教育の実施

鶴岡市（例えば庄内自然博物館構想（仮称））や関係団体と連携した森林環境教育の実施

(5) 朝日自然塾の展開

朝日自然塾連絡協議会構成団体や西川町子供農山村プロジェクト等と連携した森林環境教育
の実施

(6) その他

ア ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力

4 地元団体等との連携

(1) ネットワークの強化

モデルプロジェクトのより効率的・効果的な実施を目指して、これまでの連携団体
に加え地元の関連する団体等からモデルプロジェクトへ参画していただく「サポーター
（仮称、以下同じ）」を募るとともに、「サポーター会議」を設立し、関係団体の
ネットワーク化を強化します。

(2) 情報センター化

モデルプロジェクトに係る情報収集・発信の一元化（例えば、関係機関・団体・サ
ポーター等に対するメールマガジンの定期発行やサポーター等から定期的に情報提供
を受ける仕組みなどシステムティックな情報収集・発信体制の構築）を図ります。

今後のスケジュール（案）

- 1 第2回検討委員会 10月29日（木）
プロジェクト改訂（素案）の検討
- 2 第3回検討委員会 12月上旬
新プロジェクト（案）の策定

第1回検討委員会発言概要

- ・ 情報を発信していくという事が非常に大事。
- ・ 自然環境や森林が抱えている課題、そこで活動することの意味を積極的に紹介。
- ・ 地域の人達にも率直に問題を提供して、必要なものには積極的に協力を求めて行く。
- ・ 双方向で課題を理解しあって、認識を共有する。
- ・ それぞれの役割 = 出来る範囲は、例えば奥の深い月山山系、朝日山系の山を市民の活動や学習を通してみんなに知ってもらい、共有し、出来る事はやろうと、取り組む事が大事。
- ・ 天然林が減少し、若い人工林が増えたため、自然災害が起きやすくなっていることを多くの人が認識し、間伐の繰り返しなどにより積極的に天然林に誘導することによって保水力を高めながら災害に備えることが重要。
- ・ 希少種を保護するため林道等の工事に先立ち調査を実施すべき。
- ・ 希少種の保護について関係機関とも情報を共有し連携して取り組むべき。
- ・ 山全体、森林全体の現状把握に力を入れるべき。
- ・ 緑の回廊に民有地で極端に幅が狭い箇所があるが、民有林と連携して回廊に取り込むなど、すぐにはできなくても方向性を示すべき。
- ・ やるべき仕事が多く、ますます多様化する。ある程度の絞り込みが必要では。
- ・ 専門性を生かした情報センターとしての役割 = 情報ネットワークを構築し、情報を専門家に流すとともに市民に知らせることに重点化した方が 良いのではないか。

東北森林管理局における「モデルプロジェクト」への取組み
- 森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト -

新旧対照表

改訂案	現行
<p>1 趣 旨</p> <p>「国民の参加による管理経営」の一層の推進を図るため、森林や国有林に関心を持つ市民団体や地域住民等との合意形成を図りながら連携して、森林の整備・保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、森林とのふれあい等を実施する「モデルプロジェクト」に森林管理局が取り組むものです。</p> <p>東北森林管理局では、8つの森林生態系保護地域をはじめとする原生的な森林生態系を維持する多くの保護林や、これらをつなぐ4つの緑の回廊を設定し、広大な森林生態系ネットワークの形成に努めています。</p> <p>関連する保護林の面積は178千ha、緑の回廊は175千ha、合計353千haであり、これは東北森林管理局の国有林の20%に当たり、これらの保護林を適切に保全し、緑の回廊において自然林の再生を図ることは、東北森林管理局の最重要課題となっています。</p> <p>保護林の多くは自然公園と重複することから、マナーを守った適切な利用とオーバーユースが課題であり、緑の回廊においては、人工林の間伐を促進し、時間をかけて自然植生の再生を図っていくことが求められています。また、<u>昨今、生物多様性の保全に対する関心が高まっているなか、活動エリアにおける生物多様性の把握とその適切な保全が重要になっています。</u></p> <p>これらの諸課題を解決し、実効ある保全・再生活動を行うためには、地域のNPOや関係団体等の意見を聞き、協力を得ることが不可欠となっています。</p> <p>朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、7万haの朝日山地森林生態系保護地域とそれに接続する鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊を主な活動エリアとしており、NPOや関係団体等の活動も活発であることから、NPOや関係団体等と協力した森林生態系ネットワークの保全・再生をモデル的に実施し、その成果をもって管内全域に普及させることとします。</p>	<p>1 趣 旨</p> <p>「国民の参加による管理経営」の一層の推進を図るため、森林や国有林に関心を持つ市民団体や地域住民等との合意形成を図りながら連携して、森林の整備・保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、森林とのふれあい等を実施する「モデルプロジェクト」に森林管理局が取り組むものです。</p> <p>東北森林管理局では、これまで8つの森林生態系保護地域をはじめとする原生的な森林生態系を維持する多くの保護林や、これらをつなぐ4つの緑の回廊を設定し、広大な森林生態系ネットワークの形成に努めてきました。</p> <p>関連する保護林の面積は178千ha、緑の回廊は175千ha、合計353千haであり、これは東北森林管理局の国有林の実20%に当たります。したがって、今後これらの保護林を適切に保全し、緑の回廊において自然林の再生を図ることは、東北森林管理局の最重要課題となっています。</p> <p>保護林の多くは自然公園と重複することから、マナーを守った適切な利用とオーバーユースが課題であり、緑の回廊においては、人工林の間伐を促進し、時間をかけて自然植生の再生を図っていくことが求められています。</p> <p>これらの諸課題を解決し、実効ある保全・再生活動を行うためには、地域のNPOや関係団体等の意見を聞き、協力を得ることが不可欠となっています。</p> <p>本年4月に新設された朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、7万haの朝日山地森林生態系保護地域とそれに接続する鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊を主な活動エリアとしており、NPOや関係団体等の活動も活発であることから、NPOや関係団体等と協力した森林生態系ネットワークの保全・再生をモデル的に実施し、その成果をもって管内全域に普及させることとします。</p>

改訂案	現行
<p>2 対象地域</p> <p>(1) 朝日山地森林生態系保護地域 7万ha (関東局分22千haを含む)</p> <p>(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の一部及びその周辺 1万ha</p> <p>(3) 月山植物群落保護林 7千ha</p> <p>(4) 庄内海岸林・高館山 8百ha</p> <p>3 内容</p> <p>朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。</p> <p>(1) 朝日森林生態系保護地域の保全</p> <p>ア 管理委員会(1)の運営 年1～2回開催</p> <p>イ 生物多様性の実態と動態の把握 特別モニタリング(2)の引き続き実施、 広域の動態把握及び生物種リストの整備</p> <p>ウ <u>人工林の天然林化</u> <u>森林生態系保護地域内の人工林の抜き伐り等による</u> <u>針広混交林化の推進</u></p> <p>エ <u>ボランティア巡視</u> <u>効率的・効果的な巡視の実施</u> 21年度は80名程度委嘱</p> <p>オ <u>現況把握</u></p> <p>1： 朝日山地森林生態系保護地域管理計画書に基づき、森林生態系保護地域の管理状況、特別モニタリング調査や随時発生する案件等について協議するための常設の委員会。</p> <p>2： 同じく、森林生態系保護地域の取り扱いに役立てるため、5年間厳正に入林を規制し、森林生態系の推移について行うモニタリング。森林生態系保護地域において有識者の間で議論の分かれる入林問題の解決を目指す。森林植生と溪流魚について実施。</p>	<p>2 対象地域</p> <p>(1) 朝日山地森林生態系保護地域 7万ha (関東局分22千haを含む)</p> <p>(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の一部及びその周辺 1万ha</p> <p>(3) 月山植物群落保護林 7千ha</p> <p>(4) 庄内海岸林 8百ha (高館山を含む)</p> <p>3 内容</p> <p>朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。</p> <p>(1) 朝日山地森林生態系保護地域の保全</p> <p>ア 管理委員会(1)の運営 年1～2回実施</p> <p>イ 特別モニタリング調査(2)の実施</p> <p>ウ ボランティア巡視 16年度は60名程度委嘱</p> <p>1： 朝日山地森林生態系保護地域管理計画書に基づき、森林生態系保護地域の管理状況、特別モニタリング調査や随時発生する案件等について協議するための常設の委員会。全国で初めての試みであり、自然公園にもこの制度はない。</p> <p>2： 同じく、森林生態系保護地域の取り扱いに役立てるため、5年間厳正に入林を規制し、森林生態系の推移について行うモニタリング。森林生態系保護地域において有識者の間で議論の分かれる入林問題の解決を目指す。森林植生と溪流魚について実施。</p>

改訂案	現行
<p>(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備</p> <p>ア <u>モニタリング調査の実施</u> <u>スキー場跡地の自然植生回復状況調査の実施、</u> <u>野生動物の生息状況の把握</u></p> <p>イ <u>自然再生施業</u> <u>緑の回廊内の人工林の抜き伐り等による</u> <u>針広混交林化の推進</u></p> <p>ウ <u>スキー場跡地等の植生復元</u> <u>自然再生実施協議会による実施</u></p> <p>エ <u>森林環境教育の実施</u> <u>自然再生事業と連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>オ <u>現況把握</u></p> <p>(3) 庄内海岸林の保全活動</p> <p>ア <u>巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握</u> <u>ボランティアと連携した巡視の実施による松くい虫被害</u> <u>等の把握</u> <u>生物多様性を把握するための調査の実施</u></p> <p>イ <u>ボランティアによる森林整備への協力</u> <u>ボランティアによる森林整備を促進するための支援</u></p> <p>ウ <u>森林環境教育の実施</u> <u>関係団体と連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>(4) 高館山の保全活動</p> <p>ア <u>巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握</u> <u>ボランティアと連携した巡視の実施による虫害等の把握</u> <u>及び上池・下池の鳥類を含む生物多様性を把握するための</u> <u>調査の実施</u></p> <p>イ <u>森林環境教育の実施</u> <u>鶴岡市（例えば庄内自然博物館構想（仮称））や関係団体と</u> <u>連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>(5) 朝日自然塾の展開</p> <p><u>朝日自然塾協議会構成団体や西川町子供農山村プロジェク</u> <u>ト等と連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>(6) その他</p> <p>ア <u>ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力</u></p>	<p>(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備</p> <p>ア モニタリング調査の実施</p> <p>イ 自然再生施業</p> <p>ウ スキー場跡地等の植生復元</p> <p>(3) 庄内海岸林・高館山等の保全活動</p> <p>ア ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力 （被害状況の把握等）</p> <p>イ ボランティアによる被害跡地の再生</p> <p>ウ ボランティアによる森林整備（植え付け・保育等）</p> <p>（4）研究フィールドの提供等</p> <p>ア NPOが行う「ふれあいの森」造成への協力</p> <p>イ ナラ枯れ被害対策</p> <p>ウ 「やまがた公益の森」構想への協力</p> <p>エ 森林環境教育への協力</p> <p>オ 「六十里越街道歴史資源活用事業」への協力</p>

改訂案	現行
<p>4 地元団体等との連携</p> <p><u>(1)ネットワークの強化</u> <u>モデルプロジェクトのより効率的・効果的な実施を目指して、これまでの連携団体に加え地元の関連する団体等からモデルプロジェクトへ参画していただく「サポーター（仮称、以下同じ）」を募るとともに、「サポーター会議」を設立し、関係団体のネットワーク化を強化します。</u></p> <p><u>(2)情報センター化</u> <u>モデルプロジェクトに係る情報収集・発信の一元化（例えば、関係機関・団体・サポーター等に対するメールマガジンの定期発行やサポーター等から定期的に情報提供を受ける仕組みなどシステムティックな情報収集・発信体制の構築）を図ります。</u></p> <p style="text-align: center;"><u>（表 - 1 削除）</u></p>	<p>4 地元団体等との連携</p> <p>モデルプロジェクトの企画・実施に当たっては、朝日由地森林生態系保護地域管理委員会の構成メンバーを主体としたNPOや地元の関係団体等の意見を聞くとともに、ボランティアによる協力を受けるものとします。</p> <p>具体的には、表1のとおりであり、管理委員会関係は13団体、モニタリング調査の関係が4団体、朝日由地の巡視活動が6団体、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備が4団体、庄内海岸林等保全活動が7団体を考えています。</p> <p style="text-align: center;"><u>表1（略）</u></p>

新プロジェクトの実施体制(イメージ)

